

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）

スペシャルセッション（SS）討議内容の記録

セッション名： 2016 年東京オリンピックを契機とした道路都市再生施策の実現に向けて	
日付： 6 月 1 4 日（日）曜日，セッション時間： 8：30～10：00	
オーガナイザー名（所属）： 浜田 誠也（財団法人 道路新産業開発機構）	
討 議 内 容	<p>【報告内容】</p> <ul style="list-style-type: none">「2016 年東京オリンピックを契機とした道路都市再生施策の実現に向けて」と題したセッションを開始するにあたり、浜田誠也（道路新産業開発機構）より趣旨説明を行った。宗広裕司氏（長大）より「ひと・まち・環境にやさしい都市型公共交通システムの提案」、小脇立二氏（パシフィックコンサルタンツ）より「交通結節点とまちのつながりを強めるターミナル拠点整備の提案」、畔柳耕一氏（八千代エンジニアリング）より「楽しく・安全・快適に“歩きたくなる” 歩行・自転車空間の提案」、吉田勲氏（建設技術研究所）より「地域主導のまちづくりを支援する「総合道路デザイン制度」の提案」、江藤和昭氏（オリエンタルコンサルタンツ）より「魅力ある国づくりに向けて」について報告された。 <p>【議論のポイント】 下記の通り、議論のポイントが示された。</p> <ul style="list-style-type: none">実現可能か？（技術、コスト、法制度）新たな都市や地域の魅力が創出できるか？併せて現状の課題が解決できるか？魅力ある交通システムとして成立するか？住民の同意は得られるか？都民や国民は、この提案に賛同できるか？行政は動くか？（自治体、区、都、国）事業者は動くか？牽引役（まとめ役）の存在は？推進する社会システムが必要 <p>【討議内容】 下記の通り、意見等が出された。</p> <ul style="list-style-type: none">オリンピック開催期間中のニーズを満足する整備を行うと、オリンピック後のニーズに対して過剰供給とならないか。可能であれば、この輸送システムをモデルとして、全国に展開できれば、オリンピック開催期間中に車両等を多く用意しても、運用可能ではないか。ICT/ITS 活用による運行の高度化も必要と考えるので、こちらの検討も進めて頂きたい。牽引役（まとめ役）といった主導役を育成する制度やサポートするシステム等について、議論が必要である。BRT の導入による CO₂ 排出量削減効果が試算されていたが、東京圏全体の総量を示すことによって、BRT の役割が分かりやすくなると思う。 <p style="text-align: right;">以 上</p>